

JA全農ウィークリー

2
面

契約栽培米で JA全農多収コンテストを開催

4面



「にいがた酒の陣2019」で新潟県本部が行った米新品種PRの「新之助」すくい取り(4面)



JA全農多収コンテストで最優秀賞を受賞した埼玉県JAほくさい管内の熊倉光男氏(左)(2面)

2 TAC活動優秀JA・TACが海外研修 (耕種総合対策部)

3 日本生産者GAP協会
「2018年度 GAPシンポジウム」に参加
(耕種総合対策部)

国産原料100%の
「毎日の健康茶」新発売(生活リテール部)

4 「ういずOne研究会」を開催 (営農・技術センター)

5 「全農ブロッガー」が農業の大切さや全農の役割発信(広報部)

6 JAズームイン(JA湘南)

7 県本部だより(岐阜県本部)

8 国産大豆の焼き菓子「ソイリーツ」を 新発売(麦類農産部)

JAタウンショップ紹介

しずおか『手しお屋』(JA静岡県経済連)

**Web版JA全農ウィークリーは
こちらから**



<https://www.zennoh-weekly.jp/>

**Web
限定**

「JA全農 COUNTDOWN JAPAN」
盛岡市で出張生放送(岩手県本部)

「世界女子カーリング選手権」女子日本代表選手の食生活サポート(広報部)

**全農日本ミックスダブルスカーリング選手権
2連覇の「藤澤山口」ペアに国産食材贈呈
(広報部)**

「にいがた酒の陣2019」で
新潟米・県産農畜産物をPR

News!



初のJA全農多収コンテストを開催

米の業務用向け契約栽培の取り組み拡大へ

米穀部

最優秀賞を受賞した熊倉氏⑤



JA全農多収コンテストには、平成30年産で積極的に取り組んだ埼玉・三重県の生産者を中心に約100人が参加しました。最優秀賞の全農会長賞には「ほしじるし」で10ア当たり収量753キを達成した埼玉県のJAほくさい管内の熊倉光男氏を選ばれました。熊倉氏はさまざまな堆肥を積極的に活用し、ま

全農はJAと連携し、伸長する業務用向け米の契約栽培の取り組みを進めています。今回初めて、多収となる栽培技術の向上と優良な栽培事例の水平展開を図ることを目的に「JA全農多収コンテスト」を開催し、2月28日に三重県津市で表彰式を行いました。

た他の受賞者も土づくりに特に力を入れて多収を実現しました。全農では熊倉氏をはじめ、各受賞者の栽培概要をまとめて当日参加者に紹介しました。

平成31年産以降はこのコンテストの対象地域を拡大し栽培技術の向上と普及を図り、今後の目標として掲げる31年産3万ト、33年産10万ト以上に向け取り組み拡大を進めます。

平成30年度
JA全農多収コンテスト 受賞者(かっこ内はJA名)

全農会長賞

熊倉光男(ほくさい)

全農埼玉県本部長賞

【最優秀賞】(有)中条農産サービス(くまがや)

【優秀賞】(有)おおさとふれあい農園(くまがや)

全農三重県本部長賞

【最優秀賞】(株)林宮農センター(津安芸)

【優秀賞】(有)山一(鈴鹿)

News!



TAC活動優秀JA・TACが海外研修

担い手支援のさらなるレベルアップに向けて

耕種総合対策部

TOMATOWORLD(オランダ)で
トマトの施設園芸栽培の様子を視
察



オランダでは、自動化された最新の施設園芸を視察、オランダ「アールスメール花卉市場」とフランス「ランジス中央市場」では、欧州の流通システムや花卉・青果の市場動向などを学びました。

スペインでは種苗会社とトマト農家を訪問し、環境に優しい持続可能な農業とグローバルGAPに基づく

全農は、TACパワーアップ大会受賞者(JA表彰・JA特別表彰・TAC表彰)を対象に2月17〜23日、「TAC活動優秀JA・TAC海外研修」を開催し、オランダ、スペイン、フランスの3カ国を訪問しました。今年度は12人が参加しました。

生産工程管理について研修しました。

参加者からは「大規模施設園芸の最新の取り組みやGAPの管理手法・メリットなどについて大変勉強になった」といった声が聞かれ、充実した研修となりました。

この研修で得た知識や経験を今後のTAC活動に生かし、担い手支援につなげていきます。



フランスのランジス中央市場の野菜・果樹エリアの様子。このエリアの農産物が1日でお届けされる

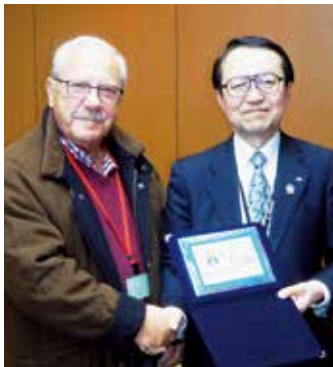


GAPの先進地スペインとGAP精神を共有

日本生産者GAP協会「2018年度 GAPシンポジウム」に参加

耕種総合対策部

全農を表敬訪問したエスコバル部長が久保常務にエレヒド市の盾を贈呈



2018年度GAPシンポジウムでエスコバル部長が特別講演

今年のシンポジウムのテーマは「東京2020後の農産物販売とGAP戦略」として開催されました。1日目はスペイン南部のエレヒド市の農業・家畜・

日本生産者GAP協会は2月27、28日、東京都文京区の東京大学・弥生講堂で「2018年度GAPシンポジウム」を開き、日本各地から約200人が参加しました。

環境部長のアントニオ・エスコバル氏が特別講演をし「安全で環境に優しく労働者の福利厚生がしっかりとっていると市場の評価が高まる。品質も常に安定する」とGAPに取り組みむ効果を説明しました。

2日目は全中や全農から認証取得を中心にGAPの取り組みについて紹介し、既に認証を取得している兵庫県のJAたじま、福岡県のJA北九から団体認証での組織的な取り組み事例が紹介されました。

また、シンポジウム終了後の3月1日には、シンポジウムで特別講演したエレヒド市のエスコバル部長が全農を表敬訪問しました。エスコバル部長からはGAPを通じてエレヒド市との交流を行った記念としてエレヒド市の盾が久保省三常務に贈呈されました。



国産原料100%の「毎日の健康茶」新発売

伊藤園と共同開発、12種の健康素材を使用

生活リテール部



国産原料100%の「毎日の健康茶」

「毎日の健康茶」は、国産原料100%にこだわって、女性に人気の12種の健康素材を使った、健康・安心なカフェインゼロの健康茶

近年、健康茶リーフ商品は女性やシニア層を中心に飲用されています。特に30代以上の女性に国産志向が高まっていますが、その一方で外国産原料を使用した商品が数多く販売されています。そこで全農は、伊藤園と共同で、国産素材にこだわった新たな商品を開発しました。

全農は(株)伊藤園と共同で、女性に人気の12種の健康素材を使った国産原料100%の穀物ブレンド茶「毎日の健康茶」を開発し、3月18日に新発売しました。

商品概要

商品名「毎日の健康茶」
内容量75g(ティーバッグ5g×15袋入り)
希望小売価格400円(税抜)
発売日3月18日(月)
発売地域全国(スーパー、ドラッグストアなど)

ティーバッグです。とうもろこし、もち麦、米、大麦、はと麦を主体に、素材ごとに適した焙煎(ばいせん)を行い、甘い香りとすっきりした後味に仕上げています。

「毎日の健康茶」の販売を通じて、国産素材の価値を訴求するとともに、皆さまの日々の健康に貢献してまいります。

News!



「ういずOne研究会」を開催

導入生産者やJA担当者が活発に意見交換

営農・技術センター

生産資材研究室ハウス内でういずOneを見学



ういずOneで栽培中のトマト



全農は3月1日、神奈川県平塚市の営農・技術センターで4回目となる「ういずOne研究会」を開催、導入生産者やJAなどから約100人が出席しました（ういずOneⅡ全農式ト口箱養液栽培システム）。

ういずOneは、平成25年度に導入開始、この6年間で面積・導入戸数とも飛躍的に増加、東北地方の水稲主産地を中心に、平成31年1月末現在で合計163件、約11・1畝で栽培されています。

研究会では、多収化・品質向上に向けた資材の提案、

将来有望な品種の紹介、総合討議では収穫増加のために何をすべきか、さらに栽培機器の効果的なメンテナンスなどで活発に意見交換されました。今後も農家の所得増大に向けて、さらにういずOneの普及拡大を促進していきたいと考えています。

News!



「にいがた酒の陣2019」で新潟米・県産農畜産物をPR

全国・海外からの来場者が新潟の食材に舌鼓

新潟県本部



「にいがた酒の陣2019」が鏡開きでスタート



米新品種「新之助」のすくい取り

「にいがた酒の陣」は新潟県酒造組合の50周年を記念して、平成16年に第1回が開催され、今年で15回目となります。新潟県内外や海外から訪れた人たちと共に、地酒と食を楽しむことをコンセプトとしています。

今年は2日間で約14万人が来場し、県内83の酒蔵が自慢の地酒の試飲販売を行う中、「にいがた米の陣」では「新之助（新品種）のおにぎり」「新潟米の食べ比べセット」や、県産農畜産物を使用した「たれカツ丼」「豚汁」などを販売し、PRしました。

購入した方からは「初めて新之助を食べました。また食べたい」「いろんな新潟米を食べ比べできて楽しい」などと喜んでいただきました。

新潟県本部は3月9、10日に新潟市中央区の朱鷺メッセで開催された「にいがた酒の陣2019」（主催…にいがた酒の陣実行委員会）の会場内に「にいがた米の陣」として出展しました。

「全農ブロッガー」が農業の大切さや全農の役割を発信

全農は平成23年度からベネッセコーポレーション（ベネッセ）と提携し、「食農育」への理解促進に取り組んでいます。ベネッセ発行の20〜40代の主婦に人気No.1の月刊生活情報誌「サンキュ」への記事掲載や、毎月平均1600万アクセス数がある関連ブログ「ロコミサンキュ」の人氣ブロッガー10人を「全農ブロッガー」に認定し、さまざまなイベントや勉強会に参加してもらい、その様子を1年間ブログで発信しました。

【広報部】

各部門の職員講師に全農ブロッガー勉強会

全農ブロッガーと各部門の職員が講師の勉強会を合計6回開催し、日本の農業の大切さや全農の役割をブログで発信しました。

前半は米穀部、生産資材部、肥料農薬部が担当し、「お米の流通経路」、「お米作りに必要な資材」、「はるみの開発」、「肥料・農薬の必要性」など、身近ですが意外と知らないお米の世界について

て詳しく知ってもらいました。後半は畜産生産部、麦類農産部、輸出対策部、フードマーケティング事業部の勉強会を開催しました。「畜産のICT技術や飼料原料の安定供給」、「国産大豆情勢や大豆食品の商品表示」、「日本の農畜産物輸出事情、全農グループ輸出事業」、「みのりみのるプロジェクト」など、通常の農畜産物の話から一歩農業情勢に踏み込んだ内容に、将来も消費者が安心して国産の農作物を食べられるよう全農が頑張っていることをあらためて感じた、勉強になったと言っていました。

「米・サンキュ」今年も実践、イベントで販売

平成29年度から、神奈川県伊勢原市で田んぼを借りて、ブロッガーと一緒に種もみから精米袋詰め、販売まで行う企画「米（マイ）・サンキュ」を開始。農業の大変さ、楽しさをブログや誌面で発



「米サンキュ」の稲刈り



イベント内の全農ブース

信しました。

今年度も神奈川県伊勢原市で米作りを実践し、ブロッガー親子ら総勢41人で6月17日に田植え、10月21日に稲刈りを行い、子どもたちは夢中で作業をしていました。

作ったお米は11月22日のベネッセ開催イベントでブロッガー自ら販売し、生産すること販売することの大変さを実感しました。



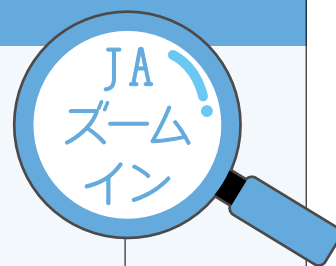
「サンキュ」4月号

全農ブロッガー1年間の活動

2018年	5月	勉強会（米穀部） 農業体験ツアー（定植）
	6月	勉強会（生産資材部） 「米サンキュ」田植
	7月	農業体験ツアー（収穫）
	8月	親子料理教室
	9月	勉強会（肥料農薬部）
2019年	10月	「米サンキュ」稲刈
	11月	「米サンキュ」精米袋詰め イベント内で販売
	12月	勉強会（畜産生産部・ 麦類農産部）
	1月	勉強会（輸出対策部）
	2月	勉強会（フードマーケット事業部）

ロコミサンキュ!は 全農ブロッガーが投稿した
こちらから 記事はこちら





販売力強化や資材コスト低減に

向けた新たな取り組み



JA湘南は、生産者の所得増大や農業生産の拡大に向けて、さまざまな新しい切り口のアイデアで取り組んでいます。

「平塚土ねぎ」から「湘南土ねぎ」へ変更

基幹品目のネギは、明治



ネギを収穫する生産者

30年代から生産が始まったとされ、歴史の古い作物です。

鮮度を保つために土がついた薄皮を取らずに袋詰めするため、日持ちが良く、軟白部が長く柔らかいことが特徴です。

JAでは共販品目として

登録名を「湘南土ねぎ」に変更



力を入れて出荷してきましたが、昨年度、さらなる有利販売を目指して名称変更しに踏み切りました。それまで使用していた「平塚土ねぎ」という長年の歴史に終止符を打ち、登録名を「湘南土ねぎ」に変更し、リブランドを図りました。

今後はより強固な産地の確立を目指し、栽培暦の作成や栽培講習会の開催など産地支援に取り組んでいき

JA湘南(神奈川県)



ます。

JA間連携で出荷箱のデザインを統一

JAはさらに流通上欠かせない段ボール箱に着目し、神奈川県本部と連携しデザインの一新にも取り組みました。

まず市場価格帯に大きな差が出ない範囲で箱サイズを小さく、さらにライナー色を白色からコストの低い茶色に変更。さらに「県内JAが一体となって県内農業を盛り上げていこう」という思いから神奈川県らしい言葉として認知度の高い「じゃん」というフレーズをデザインに起用し、側面には「いいじゃん・やるじゃん・うまいじゃん」の



JA間連携でデザインを統一した出荷箱

キャッチコピーを刻みしました。

他JAとともにトマトの出荷時に新デザインの段ボール箱を試験的に使用したところ、資材コストの大幅な削減を実現しました。これをきっかけに「じゃん」のロゴを使った取り組みは他JAにも広まり、県農畜産物のブランド力の強化へとつながっています。

概要	平成30年10末日現在
正組合員数	3937人
准組合員数	1万4619人
職員数	323人(正職員数)
販売高	14億6千万円
購買高	16億2千万円
貯金残高	3162億1千万円
長期共済保有高	5846億9千万円
主な農畜産物	米、キュウリ、トマト、ミカン、イチゴ

県本部 だより

岐阜県本部



岐阜が誇る新たな花 「フランネルフラワー」

横のつながり強化し産地づくり

岐阜県の新たな花として急伸しているのが、フランネルフラワーです。オーストラリア原産のブライダル関連を中心に需要のある草

花です。羊毛織物（仏語訳…フランネル）の肌ざわりに似た産毛のような細かい毛が花全体に生えており、白い花びらの先に緑色の模様

が入る可愛らしい表情が特長です。国内流通品

のほぼ全てが岐阜県産で、岐阜県本部は特に切り花用品種の販売に携わっています。

優良品種の登場で
出荷本数が急増

岐阜県は20年以上フラ



春と秋に旬を迎える「ファンシーマリエ」



会員相互の技術向上を目的に圃場（ぼじょう）巡回

ンネルフラワーを研究しており、さまざまな品種を開発しました。中でも2015年に誕生した、四季咲き性の切り花用品種「ファンシーマリエ」は、輸入物にはない「輪付きの良さ」と「日持ち」が特長の優良品種です。年2回の出荷が可能で「ファンシーマリエ」の登場で、生産性は飛躍的に向上しました。結果、2014年は1万本弱であった年間出荷本数が、2018年には8万本と急成長しています。

産地・行政・JAグループ
オール岐阜で取り組む

岐阜県のフランネルフラワーの代表的な生産者団体は、「ぎふフラワー研究会」です。岐阜県本部は研究会の事務局として機能し、産地と県行政機関が深く結び付いた、横のつながりの強い産地づくりに取り組んでいます。栽培実証や新規生産者の掘り起こし、研修会の実施、展示・商談会への出展、リレー出荷の検討、

テーブルウェア・フェスティバル
2019での展示



販路開拓など、あらゆる取り組みは、地域や組織の垣根を越え、産地・行政・JAグループのオール岐阜で臨んでいます。

一方で、まだまだフランネルフラワーは知る人ぞ知る花です。国内流通もほとんどがブライダル業界で完結しており、一般小売りにほとんど出回っていません。今後は、「岐阜の花」といえばフランネルフラワーと、誰もが知る花になるよう知名度向上を目指します。

JA全農×(株)松尾商店×立命館大学

国産大豆の焼き菓子 「ソイリーツ」を新発売

麦類農産部は、国産大豆の販売先である株式会社松尾商店と、立命館大学スポーツ健康科学部の海老久美子教授との3者によるコラボ商品として、国産大豆のフィナンシェ(焼き菓子)「ソイリーツ」を4月から発売します。【麦類農産部】

この「ソイリーツ」には、国産大豆をまるごと粉にしたパウダーが原料に使用され、バランスの良いアミノ酸で構成される良質なたんぱく質が含まれています。体作りを考えるすべての人に向けて「みのりカフェ」などで販売します。

全農は、この「ソイリーツ」のような国産大豆を使用した商品開発・販路開拓を通じて、国産大豆の消費拡大に取り組んでいくと同時にトップアスリートへの提供などを通じ、「ニッポン人の活躍を『ニッポンの食』で支える。」取り組みを進めていきます。

4月から
発売



商品概要

商品名	SOYLETTES(ソイリーツ)
種類	プレーン、抹茶、チョコの3種類
容量	1個30g
価格	オープン
販売開始	4月から発売
販売場所(予定)	みのりカフェ(東京(銀座)、京都、福岡、仙台、広島)、 アンテナショップ「いちごいちえ」(東京(大手町))、 ネット販売(JAタウン)

「ソイリーツ」の
ホームページはこちらから



金沢 ZEN-NOH

JA全農
オフィシャル
アプリ

トピックス ポイント クーポン

「食と農」の情報を広く消費者へ!
スマホアプリを公開中

JA全農のイベントや新商品に関する最新情報が
さらに充実! 作動環境: スマートフォン iOS8以上 Android4.3以上



JAタウン
ショップ紹介

JAタウン |

検索
クリック

しずおか「手しお屋」(JA静岡県経済連)



JAタウンは
こちらから



伊豆太陽の花 カーネーション20本……3240円

静岡県「JA伊豆太陽」管内の東伊豆町・河津町は、温暖な気候と伊豆の太陽をたっぷり浴び、花の栽培が盛んな地域です。

ご紹介するカーネーションは母の日の定番ですが、フラワーアレンジメントやブライダルとしてもよく利用され、赤・ピンク・白・黄などさまざまな色があります。この時期、入学祝いなどお祝いの場面に華やかなカーネーションはいかがでしょうか。産地直送ならではの花もちの良さと、長い間たっぷりお楽しみいただけます。

1箱3240円、2箱なら5400円と大変お得! この機会にぜひ、ご利用ください。

この他に「金魚草」と「フウリンソウ」も販売中です。

なお、ご紹介した商品は、4/5(金)まで、FAXでもご注文を承ります(ご自宅宛代金引換のみ)。※天候などによりご希望に沿えない場合があります。

【ご注文方法】①商品名、規格、数量②郵便番号③住所④氏名⑤電話番号⑥FAX番号をご記入のうえ、FAX番号03-5218-2517までご送信ください。しずおか「手しお屋」は、全国送料込み価格です。

JA全農のインターネット ▶ご注文は <http://www.ja-town.com>

ショッピングモール ▶お問い合わせは shop@ja-town1.com

※本誌を通じていただいた注文などで取得した個人情報は、商品等の発送にのみ使用します。